

2025 年 11 月 11 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～函館市の小学生を対象に出前授業と造船所見学会を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、船舶・海事施設等の見学会、出前授業への協力や各種資料の提供等を実施しています。

この度、北海道運輸局および北海道海事広報協会、津軽海峡フェリー(株)等と協力し、函館市内の 4 つの小学校を対象に出前授業を実施いたしました。11 月 4 日(火)には大森浜小学校の 5 年生 60 名および駒場小学校の 5 年生 33 名を、11 月 5 日(水)には北星小学校の 5 年生 11 名および青柳小学校の 5 年生 37 名を対象に、「暮らしを支える海運」と題した授業を行いました。また、11 月 6 日(木)には、函館どつく(株)にご協力いただき、青柳小学校の児童を対象に造船所見学会を実施いたしましたので、その模様をお知らせいたします。

① 出前授業（大森浜小・駒場小・北星小・青柳小）

授業では、当協会から海運が日本の貿易量の 99.5%を輸送しており、私たちの生活に必要なものの大部分と密接に関わっていることを説明しました。その後、コンテナ船と自動車船を例に、船が運べる貨物量の多さや貨物量あたりの輸送コストの低さ、荷役方法等を写真や動画を使って紹介しました。自動車船の荷役の動画を見た児童たちは、わずか 10 cmほどの間隔で駐車されていく様子に驚いていました。

また、海運のスケール感にも関心が示され、世界最大級のコンテナ船は全長 400m もあり、地元の五稜郭タワー（全長 107m）の約 4 本分に相当すると伝えたと、大きな驚きの声が上がっていました。



出前授業の様子①



出前授業の様子②

また、津軽海峡フェリー(株)からは、「フェリーで働く仕事」と題した説明とともにロープワーク講座が開催され、「本結び」「八の字結び」「鎖結び」等、実際に船内で使われているロープの様々な結び方を体験しました。児童たちは楽しみながら海運業への興味を深めた様子でした。



出前授業の様子③



ロープワーク講座の様子

② 「函館どつく」の造船所見学会

学校で出前授業を受けた翌日、青柳小の児童たちは、バスで函館どつく(株)に移動し、造船所（船台、建造工場、ドック等）を見学しました。まず、座学にて同社の事業内容や歴史等について説明を受けました。児童たちは、五稜郭公園と同等の敷地面積を誇る造船所の広さに驚くとともに、熟練した技術者の手によって丈夫な船が造られていることを、実際の作業現場を見ながら学習することが出来ました。



工場内を見学する児童たち



建造過程を見学する児童たち

当協会は、今後も海事関連諸団体などと連携しながら、海事産業をより教育に取り上げていただけるよう広報活動に注力してまいります。

以上